

RONGO²

Vol. 67

10

October

2025

▲仲間とつながる、最初のストーリー。

新入生交流会

○留学生が語る、日本での学びと発見

留学生インタビュー

■キルギス愛、語ってもらいました。

ようこそ！！入山先生インタビュー

×編集部員募集中！！

ロンゴロンゴ宣伝

DEPARTMENT OF
C-C STUDIES

C科新入生交流会 in 2025

個性豊かなアーティスト 3 名をしょうかい !!

福田さん

京都府出身・千葉県在住。ボリビアチャランゴ協会（SBC）日本代表。現地で8年間活動し、ボリビア政府から最高位の勲章「マエストロ・ディプロマ」を授与された経歴を持つ。国内外で30枚以上のアルバムに参加し、現在は大学講師としても活躍中。

岡田さん

静岡県出身・北海道在住。サンポーニャのほかケーナやギターなど、管楽器、弦楽器ともにこなすマルチプレイヤー。ボリビアでのセッション経験を経て、幅広いジャンルのミュージシャンと共演。自然な音色を生かしたオリジナル曲の制作にも力を入れている。

智詠さん

埼玉県出身・愛媛県在住。大学在学中からフラメンコギタリストのプロとして活動し、スペインで本場の技術を学ぶ。帰国後は国内外で多数のコンサートや収録に参加。フラメンコやタンゴを軸に、多彩な音楽表現で独自の世界観を追求している。



ロンゴ編集部がインタビューを行いました !!

Q1 現地の音楽と日本の音楽の違いは感じましたか？

福田 音楽自体には違いがあるんですが、音楽に対するミュージシャンの意気込みや普遍的な音楽的価値に違うという印象は持ちませんでした。テクニカルな部分でのリズムや音楽の社会背景というのは国や地域で異なりますが、基本的に音楽には国境はないと感じています。

岡田 人に聞かせるだけでなく、自分たちが楽しむ部分も多いかなと思いますね。

智詠 それぞれの楽器で音色とか演奏方法は違うけれども、一つ一つの歌に合わせて寄り添って変化していくという本質があると思います。喜びや悲しさなど普段ある感情を音楽に託している部分は変わらないんじゃないかな。なっている音は違っても共通するものはたくさんあると感じます。

Q2 皆さんが演奏する楽器の魅力を教えてください。

福田 チャランゴのきらめくような音色に惹かれました。感傷的な部分に魅力を感じます。弾いて音が出た時の感触が好きです。楽器と一体になるような感覚があります。

岡田 楽器というのは楽器単体ではなく、奏でたとき楽器になると思いますね。人と一体になるというか、演奏する人によって変わりますし。自分もそういった奏でた時の感覚、音色に魅力を感じます。

智詠 ギターの場合、その場にに合わせて色々な役割を務めることができるので好きです。完全に1人で完結することもあるし、何人かで演奏してアシストしたり歌と合わせたりなどができるので、様々なポジションを担える楽しさがあります。

Q3 最後に学生にメッセージをお願いします。

福田 大人を見捨てないでください。僕たちは学生が大好きですので一緒に良い世の中にしていきたいと思っています。

岡田 日常を幸せだと思う毎日をごしてほしいなと思います。そう思うかどうかというのは自分次第、考え方次第なので、当たり前の日常というのは逆に幸せであるというのを感じて、考えて生活して行ってほしいです。

智詠 「若い」というだけですごくったんだなっていうのは感じるので、やりたいことがあればやってほしいし、会いたい人がいれば会うというように行動に移して行ってほしいなと思います。大切なご縁に恵まれることを祈っています。

午後の部では、1年生と留学生がチームで共同して各国の文化紹介が行われました。

それぞれのチームが個性豊かに各国の文化紹介を行なっていました♪

民俗衣装を身に着けて発表したチームもあれば、クイズ形式で進めていたり、ちょっとしたゲームや劇を織り交ぜたりして発表したチーム、発表後に伝統的なお菓子や料理を提供したチームもありました。どのチームもただ発表するだけでなく、聞く側が楽しめるようなエンターテインメント性溢れるとても見応えのある文化交流学科らしい面白い交流会となりました。

発表は以下の 10 チームで行われました !!

Em xinh say hi (ベトナム)	LA BELLA VITA (イタリア)
KANBU (韓国)	眼鏡戦隊メガレンジャー (中国)
キムチーム (韓国)	れっつごー中国 (中国)
シーヴァ (中国)	ナシゴレン (インドネシア)
Em O' i (ベトナム)	
команда П i чка ~チームぽかぽか~ (ウクライナ)	



結果発表 1位 シーヴァ (中国)

内容：江西省と陶磁器「景德鎮」について、中国留学生のルーティン Vlog

青唐辛子と骨付き肉の炒めもの提供←ロンゴ編集部員も試食させていただきました！

感想：かなり唐辛子が効いていて辛い！お肉との相性抜群！ご飯が欲しくなる美味しさでした…

シーヴァチームの勝山さんから感想をいただきました

“チームでの発表”という“文化交流学科”ならではの貴重な体験。せっかく日本語で一生懸命交流しようとする留学生たちがいるから、私たち（日本人学生）も中国料理を作ることになりました。これで留学生の努力にお返しをするという考えに至りました。…（中略）…皆で案を出す際、ブレインストーミングを意識し、その後、必要性を考え取捨選択をしたこと。そしてもちろん、発表をお見せする先生や生徒の皆さんにどうしたら楽しんでもらえるか、この3点を踏まえ作り上げたものが、きちんと皆さんの心に届いたことが功を奏し、貴重な機会を更に思い出深いものにすることができました。

入山美保先生インタビュー

今年の4月に新しく赴任された入山美保先生にお会いして、いろいろお話を伺いました！

—先生の趣味と特技を簡単に教えてください。

私の趣味は旅行です。今まで44都道府県を旅行しました。沖縄と宮崎と鹿児島に行けていないので、この3県はいつか行きたいなと思っています。卓球を生涯スポーツとしてやり始めたのですが、この半年ほどは、できていません。卓球ができるところがあったら教えてください。柔道六段だった父の影響で小学生までは柔道をしていました。

—今まで行った国内の場所で一番印象深かったところがありますか？

国内の中で一番を選ぶのは難しいですね…。私が生まれたのは福島県会津若松市なんです。父が転勤族だったので3歳まで福島県で育って、その後は愛媛県西条市で育ったんですが、3歳以降福島県に行っていなかったんです。それで、母が元気なうちにと思い立って、去年と今年、40数年ぶりに母と一緒に福島県を訪ねる旅をしました。去年は、昔住んでいた家の近所の方を訪ねたり、猪苗代湖や鶴ヶ城、東山温泉に行ったりしました。今年は少し足を伸ばしてテレビでも話題になった大内宿や芦ノ牧温泉に行きました。福島県が最近の中ではすごく印象深いですね。

—海外はどこに行ったことがありますか？

中学校2年生の時に愛媛県西条市の海外派遣団員としてアメリカの西海岸にあるワシントン州にホームステイで2週間くらい行きました。帰りにロサンゼルスに立ち寄り、初めてのディズニーランドをアメリカで経験しました。大学2年生の時にまたアメリカに語学研修で行きました。前はオレゴン州に近いところだったのですが、2回目は州都シアトルに近いところに行って、以前お世話になったホストファミリーにも鉄道に乗って会いに行きました。その後、青年海外協力隊員として中央アジアのキルギス共和国（以下、キルギス）に派遣されたときのトランジットでトルコに、キルギス滞在中にカザフスタンやウズベキスタンに行きました。大学院在学中にウズベキスタンに1年間留学し、キルギスには、計4年間、住んでいました。他は、シンガポール、マレーシア、ベトナム、台湾、中国、モンゴルで限られたところしか行っていません。

—次に愛媛県西条市の魅力について聞きたいです。

西条市のいいところは海もあって西日本で一番高い石鎚山があることです。名水百選にも選ばれた「うちぬき」と呼ばれる地下水が湧き出ていて、無料で飲めます。下水道料金は払うんですが、上水道料金を払わなくてもおいしいお水が飲めるというのが西条市のいいところです。市内のあちこちにうちぬきが湧き出ているので、汲みに来る方がいます。うちぬきは、夏は氷がなくてもすごく冷たいのですが、冬はそこまで冷たくありません。毎年10月に江戸時代に西条藩があったときから300年以上続く「西条祭り」というだんじりや神輿が繰り出すお祭りがあって、市外からたくさんの観光客が来ます。今思えば恵まれたところに住んでいたなと思います。

—入山先生のふるさとはどこですかって聞かれたらどこって答えますか？

愛媛ですね。私の言葉は愛媛の方言です。実は茨城県民歴の方が長くなってしまったのですが、両親が愛媛出身で、愛媛に15年住み、地元の西条市役所で働いたこともありますので、思い入れが強いです。

—次に入山先生の研究について、教えてください。

私の研究テーマは中央アジア、特にキルギス共和国における持続可能な日本教育支援です。なぜこのことについて研究しようと思ったのかは、私が大学院修士課程を修了した後、青年海外協力隊でキルギスに3年間行っていたことが大きく影響しています。



中央アジアの民芸品をいっぱい飾っています。

マトリョーシカを並べてみました。



—青年海外協力隊で派遣される国がキルギスというのは、はじめから決まっていたんですか？

決まっていなかったですね。 当時は、今とは応募方法が違っていて、面接でどういう教育機関で教えたいかと聞かれ、私は大学で専門的に教えたいと答えました。 非漢字圏のアジアの国に行きたいと言ったので、タイやインドネシアといった東南アジアに派遣されるものだと思っていました。 インターネットで合格発表が行われる時代でもなかったのも、最初に自宅に速達で合格通知が届き、翌日届いた派遣国通知に「キルギス共和国」と書かれていました。 後から思えばキルギスはアジアの国でした（笑）

—実際にキルギスに行ってみて、どうでしたか？

私はキルギスに行ったら、キルギス人になれるということがわかりました。私の顔はキルギス人そっくりなんです。街を歩いていると、話しかけられるのは、100% キルギス語です。「大昔、シベリアのエニセイ川流域に暮らしていた民族のうち、魚が好きな者が東へ行って日本人になり、肉が好きな者が西へ行ってキルギス人になった」という言い伝えがあり、「日本人とキルギス人は兄弟だ」と言われるくらい、顔が似ています。「外国人」と見られないので、生活する上で楽でした。滞在中、日本ではほとんど起きない停電や断水を何度も経験しました。電気が止まると、せっかく作成した試験問題の印刷ができず、思い通りに予定が進まないのも、慣れるまで時間がかかりました。一番大変なのは、断水でした。キルギスは、海がないので、魚は輸入品で値段が高いです。イスラム教徒が多いので、豚肉はあまり売っておらず、羊の肉をよく食べました。キルギスは3,000メートル級の山が多く、水がきれいなところなんです。 通勤途中に山を見ると、石鎚山を思い出して、故郷西条市のことを懐かしんでいました。

—どうしてキルギスの日本語教育について研究することになりましたか？

キルギスに行く前は、日本語の使役表現の「見させる」と他動詞「見せる」の違いといった文法の研究をしていました。 キルギスから帰国し、再び大学院に進学した後も、日本語の文法について研究しようと思っていました。 入学直後に指導教員の先生に「せっかく日本人がめったに行かない国に3年間も行ってきたんだから、キルギスのことをいかにした研究をやった方がいいよ」と言われ、非母語話者日本語教師養成について研究することにしました。 中央アジアの大学には日本語教員を養成するための授業や講座がなく、ほとんど研修を受けずに教壇に立っているのが現状です。非母語話者日本語教師が当該国で日本語教育を牽引する専門的な日本語力、知識を持った人材になるためにはどのような支援を行うべきか考えています。

—キルギスで日本語を勉強している方は多いのですか？

キルギスの人口は、現在730万人で、2021年の調査によると、約1,300人が日本語を勉強しています。私がキルギスに初めて行った2003年の日本語学習者数は、600人弱だったので、その頃と比べると増えています。 当時の学習者のほとんどは大学生でしたが、今は、小中高校生が6割以上を占めていて、裾野が広がっているのを感じます。日本人にキルギスのことを聞くと、「どこにある国？」と知らない人が多いですが、キルギスは親日家が多く、日本のことをよく知っていて、日本への憧れや尊敬の念を持ってくれています。2018年9月に首都ビシケクに日本式の小学校から高校の一貫校が設立されました。最初は10人程度の入学者だったのが、今年1,500人規模の学校にするため、新しい校舎を建てると聞き、キルギスの方に日本という国のすばらしさが伝わっているのではないかと思います。

—茨城キリスト教大学に着任されてから4か月が経ちますが、大学の印象はどうですか？

明るい学生が多い印象です。大学以外の駅や電車の中でも「先生！」と挨拶をしてくれる元気いっぱいの学生がいて、うれしい驚きがありました。1年生前期の「基礎演習」は留学生も入ったグループワークがあり、交流を通してお互いを知ることができて、カリキュラムがしっかりしていると感じています。 授業の中で、お互いのことを知るきっかけをつくることは大事だと思います。茨城キリスト教大学は、私がキルギスで働いていたビシケク国立大学と協定を結んでいて、縁を感じています。茨キリ生とキルギスからの留学生をつなぐ橋渡し役になれたらいいなと思っています。

—最後に学生へのメッセージをお願いします。

大学生のうちにいろいろな経験をしてほしいです。 文化交流学科はさまざまな専門を持つ教員がいて、私が学生だったら、多くの授業を履修してみたいです。「文化交流体験」という授業で海外に行けるので、ぜひ履修して、日本を外から見るといった経験をしてほしいです。この授業で学生みなさんと一緒にキルギスに行きたいと思っています。海外だけでなく、日本の歴史や文化を知るために、日本国内も旅してほしいです。部活やサークル、趣味、ボランティア活動等、夢中になれることをつくって、充実した大学生活を送ってください。



左から、中央アジアのマグネット
キルギスの国旗とフェルト製品
キルギスの伝統楽器コムズを
持った人形



名前：ブイ ティ ガン フエ

出身地：ベトナム

趣味：アニメを観たり、日本語を勉強したりすることです。
日本が好きになったきっかけ：アニメや日本の音楽に興味をもったからです。

みなさんにメッセージ：よろしくお願いします！仲良くしてください。



名前：ファム チャウ ハイ ハ

出身地：ベトナム

趣味：カラオケ
日本が好きになったきっかけ：日本語の可愛さ（アクセント）

みなさんにメッセージ：時間があれば、一緒に遊びに行きましょう



名前：ホー ティー チャウ トウアン

出身地：ベトナム、ダナン市

趣味：旅行して、新しいことを発見すること、
音楽を楽しむこと、アニメを見ること、食べること

日本が好きになったきっかけ：子どもの頃にアニメを観て、日本語の発音が可愛いと思ったのがきっかけです。その後、アニメを観れば観るほど日本に興味を持ち、日本の言語、文化、生活を自分の目で体験したいと思うようになりました。

みなさんにメッセージ：人生は一度きりです。たくさんのことを体験してみてください。行って、見て、感じて、楽しんでください！私も日本での経験を大切にしていきたいです。



名前：フィン ティ ゴック チャム

出身地：ベトナム

趣味：コナン漫画・アニメを見る事、編み物、料理

日本を好きになったきっかけ：子供の頃からコナンの漫画を読んが、一度桜を見に行けたらなあと思っていました。

みなさんにメッセージ：ベトナム料理が得意なので、時間があれば一緒に作りましょう！

留学生インタビュー

この記事は、後期まで留学している方々を紹介しています。今回はインドネシア人1名、韓国人1名、ベトナム人6名にインタビューしてきました。留学生の皆さんが何がきっかけで日本を好きになったのか、趣味なども紹介してもらったので、共通の趣味があったときは、話しかけてあげてくださいね！
もしかしたら、友達になれるかも…？



名前：レオ アンダラス (Leo Andalas)

出身地：インドネシア、プカンバル (Pekanbaru)

趣味：運動すること、ジョギングとか、歩くことも好き。海を見ながら運動するのが一番好きです。

日本が好きになったきっかけ：もともとインドネシアと日本は昔から交流の歴史があるので、知っていました。ドラえもんのおかげで日本のアニメが好きになりました。それからどんどん日本への興味が湧いてきました。

みなさんにメッセージ：皆様、この世界はとても広いです。若いときにどこかへ旅に行きましょう！色々経験を作って他の人と合う事でいい人生になるかもしれません。世界はとても綺麗です！



名前：ヴォ ティ ミン タム

出身地：ベトナム

趣味：猫と遊ぶこと、Sky : Children of the light (ゲーム)

日本が好きになったきっかけ：アニメ、猫、日本料理

みなさんにメッセージ：ゲームが好きだったら、一緒にしませんか。よろしくお願いします。



名前：ハ ソンヒ

出身地：ソウル

趣味：ゲーム、散歩

日本が好きになったきっかけ：アニメーション

みなさんにメッセージ：よろしくお願いします。



名前：ホ チャン アン ニエン

出身地：フエ市 ベトナム

趣味：ドラえもんを観ること

日本が好きになったきっかけ：小さい頃から観た『ドラえもん』などのアニメや漫画がとても面白くて、それ以来、日本の文化に興味を持つようになりました。

みなさんにメッセージ：日本文化や観光地と一緒に体験しましょう！

そもそもロンゴロンゴって？

「ロンゴロンゴ」とは、C科にまつわるさまざまな情報を取り上げ、

年に2回発行しているオフィシャル広報誌です！

誌名の「ロンゴロンゴ」は、かつて南太平洋ポリネシアの

イースター島で作られていた「物を言う板」に由来します。

当時の人が、歴史や情報を伝えるために使っていたとされています。

ロンゴロンゴはサークルなの？

ロンゴロンゴはサークルではなく、

「学科広報誌」を作成する「アルバイト」ですので、

アルバイト代が出ます♪

本誌では、C科の学生による編集部で、

取材・原稿の執筆・編集まで手掛けています！

ぜひロンゴロンゴへ！！

写真を撮ることやイラストを描くことが好きな方、

編集ソフトが使える方、もちろん初心者の方でも大歓迎です。

ぜひ私たちと一緒に心に残る記事を作ってみませんか？



〈2025年度10月号 ロンゴロンゴスタッフ〉

加藤陽風 笠原楓 竹山赤心 佐藤真 井坂萌々寧 板垣美涼 掛札風姫 野原ゆず 早坂優羽 飯村遼太郎 岩田和樹 佐藤沙弥佳 関根生羽 鄭敬珍（編集顧問） 藤野真拳（編集顧問）

新入部員募集中♪